

茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成29年 8月

1 東京都中央卸売市場(平成29年1~7月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は112.5万tで、前年比3%増、金額は3,245億円の前年比1%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は14万tで、前年比2%増、金額は352億円の前年比4%減となった。
(金額の内訳は、野菜291億円、果実61億円。前年同期比で野菜4%減、果実増減なし、平年同期比で野菜8%増、果実8%増)
→金額が【増加】した品目(前年対比)：はくさい(158%)、ねぎ類(121%)、ピーマン(113%)、すいか類(127%)
→金額が【減少】した品目(前年対比)：レタス類(76%)、きゅうり(87%)、れんこん(96%)

③ 茨城県の1~7月計の青果物入荷量は平年比104%(シェア12.5%)、取扱金額は同108%(シェア10.8%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1~7月計)			
	1~7月計	年間計	年間比	1~7月計	年間計	年間比	千葉	北海道	青森	
数量	H29	1,125,346		140,528	←シェア(12.5%)		13.0%	6.4%	5.3%	
	H28	1,094,158	1,956,079	55.9	138,334	229,650	60.2	14.0%	6.6%	5.4%
	(前年比)	103		102	シェア(12.6%)					
	平年値※	1,125,755	2,013,667	55.9	134,524	226,294	59.4			
	(平年比)	100		104	シェア(11.9%)					
金額	H29	324,475		35,177	←シェア(10.8%)		8.9%	3.6%	5.5%	
	H28	328,491	586,489	56.0	36,458	61,743	59.0	9.0%	3.2%	5.9%
	(前年比)	99		96	シェア(11.1%)					
	平年値※	312,418	483,051	61.8	32,562	53,617	60.7			
	(平年比)	104		108	シェア(10.4%)					

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成24~28年の5カ年平均。
※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
平成28年実績(1~12月計)
茨城県：金額シェア(10.5%)、数量シェア(11.7%)
千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(11.5%)
北海道：金額シェア(6.4%)、数量シェア(11.2%)

2 東京都中央卸売市場(平成29年7月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約1.47万トン(103%)、単価は253円(83%)、金額は約37億円(86%)
果実類の入荷量は約1.5千トン(100%)、単価は263円(111%)、金額は約4.1億円(112%)

	品目	数量(t)				単価(円/kg)				金額(千円)		
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	ねぎ	2,144	95	87	94	369	93	104	101	790,387	88	91
	ピーマン	1,021	98	88	102	313	84	98	100	319,384	82	87
	とうもろこし	1,845	107	102	106	165	77	80	83	303,707	83	82
	ミニトマト	508	130	119	119	413	79	89	95	209,802	102	106
	野菜類計	14,740	103	100	101	253	83	90	91	3,729,227	86	91
果実	すいか類	1,019	108	93	80	205	122	149	127	209,238	132	139
	日本なし類	77	77	64	62	653	115	127	128	50,038	89	82
	果実類計	1,560	100	74	94	263	111	129	71	410,566	112	96

(野菜)

・ねぎ 茨城県産ねぎは、5,6月の少雨の影響により肥大が抑制気味のまま細物中心の出荷が続き、入荷量は前年比95%平年比87%と少なかった。市場全体では、千葉が少なかった前年を上回った他、昨年の作柄が不良であった中国産も増加したことから前年比94%となった。単価は下旬にかけて下げ基調とはなったものの前年比93%、平年比104%と堅調、金額は前年比88%、平年比91%であった。

・ピーマン 茨城県産ピーマンは、半促成作型が、年明けからの晴天により着果・出荷量とも前年・平年を上回り連続して多かったため、着果負担による成り疲れ等から終盤の切り上がりが早まり、抑制作型への切り替え時期の入荷量が少なく、入荷量は前年比98%、平年比88%となった。市場全体では、遅れていた東北産が海の日に増増加し、前年比102%と平年並であった。なお、東北産の入荷が本格化したことから、単価は安値基調となり、茨城県産は前年比84%、平年比98%、金額は前年比82%、平年比87%であった。

・とうもろこし 茨城県産とうもろこしは、少雨による乾燥から肥大が遅れていた分が、7月上旬から増加し、前年比107%平年比102%、市場全体でも他産地が同様の理由から6月出荷分の遅れが7月上旬に入り一気に増量したことから前年比106%と多かった。入荷量増により単価は市場全体で安値基調となり、茨城県産は、前年比77%、平年比80%、金額は前年比83%、平年比82%であった。

(果実類)

・すいか類 茨城県産すいか類は、5,6月の少雨による乾燥から全体的に小玉傾向であったが、こだますいかの出荷は最盛期以降も続いたこと等から、前進化により切り上がりが早まった昨年を上回り、前年比108%、平年比93%であった。市場全体では、東北産の大玉すいかは低温少雨による生育遅れから出荷が遅れ、前年比80%と少なかった。もも等のすいか以外の夏果実においても出遅れたことによる品薄から、単価は高く、茨城県産は前年比122%、平年比149%、金額は前年比132%、平年比139%であった。

・日本なし類 茨城県産なし類は、ハウス幸水の作付面積減少や5,6月の少雨による小玉化、露地作型の生育遅れにより、前年比77%、平年比64%と少なかった。全国的な開花、生育遅れや、干ばつによる小玉傾向の中、九州産地からの入荷量も著しく減少し、市場全体では前年比62%と非常に少なかった。入荷量減少により単価は高値基調となり、茨城県産は前年比115%、平年比127%、金額は前年比89%、平年比82%であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績及び東京青果物情報センター速報値を基に算出